

第十八回 顎関節症と頭蓋骨

顎関節症側は本来きき手側であり、片方の目が疲れたり鼻詰りするのも顎関節症側です。鼻詰りする側の腎臓も異常をおこしています。左右共に鼻詰りするのには左右の腎臓も異常をおこしています。（この場合、左右共奥歯の歯の咬み合せが低い場合が多い）

この様に顎関節症側の頭蓋骨片側半分は上下・前後の外側から圧迫され難聴もおこしやすい原因の 1 つです。又 顎関節症側は血液の流れが頭から足先迄、片側半分(内蔵も含む)は流れが悪く冷え症となりやすく、歯の歯周病・四十肩・五十肩も血行不全の原因の一つです。反対側の頭蓋骨は、圧迫とは全く逆で外側に飛び出した型となります。

又、顎の音が鳴る側であり、上下の歯を咬み合わせた時、歯の高さが反対側よりも高いということになります。つまり、「ふうせん玉」を指で圧迫しますと圧が他にかかるように上下の歯の咬み合わせは反対側よりも圧が高いと、片側半分の頭蓋骨が外へ飛び出した状態になります。反対側はその逆となります。

神経の 90%が頭蓋骨に集まっています。頭蓋骨に異常をおこしますと原因不明の病気が発生しやすい事になります。

今申し上げたのはあくまで基本的なパターンです。

頭を強くぶついたり、歯が抜けたまま、歯並みが悪い、歯の矯正治療したり、左右の足の長さが違った状態で歯に詰め物や冠をかぶせたりしますと頭蓋骨の圧迫される場所が必ず片側とは限りません。左右にちらばっています。

他のバックナンバーで申し上げましたように頭蓋骨とおしりの骨盤とがお互いに補正し合っています。

(片方の鼻詰りならばおしりの真中の骨である仙骨を逆方向に捻ってみると鼻詰まりが軽くなる。)

頭蓋骨の左右別々の耳のあたりの側頭骨→おしりの左右別々の腸骨(足の付け根の骨)

頭蓋骨の後側の後頭骨→おしりの真中の骨である仙骨

頭蓋骨の中心にある左右一対の蝶形骨→おしりの真中の仙骨の下にある尾骨

このように頭蓋骨に捻れをおこしていますと必ず骨盤に自覚症状がなくても異常をおこしています。つまりギックリ腰になる可能性を持っています。

又 きき手側には顎関節症と申し上げましたが、きき手と反対側の顎が痛いとなりますと相当腰が悪いとなります。

本来、きき手側の足の長さが反対側よりも短足となり足のヒザに痛みが出やすいですが長時間経てその痛みをかばって、今度は反対側へ痛みが変わり骨盤が逆方向に捻れ、左右の足の長さが変わり首の骨、背中の骨が捻れ、色々な体の不調が出てくる事になり、座骨神経痛、腰痛ヘルニアに進んでいきます。

<顎関節症と足との関係>

下顎を側方へイッパイ横へズラすと健康な人は左右共反対側の足が短くなります。ところが顎関節症の人は顎関節症側へ下顎をイッパイ横へズラしても左右の足の長さに変化がおきません。顎関節症の反対側へズラしますと反対側の足が短くなります。

又、下顎を左右共横へズラしても左右の足の長さが変わらない人は頭蓋硬膜の緊張しており、病気の中の病気とも言われています。

つまり医者に診てもらっても、わからないとかなまけ者とか…です。

でも本人は相当、体がつらいです。寝が浅く体がダルく、疲れやすい、集中力がなくと言う具合です。(ひどくなると足を引きずって歩くようになる) 誰にもわかってもらえないこのつらさも。

大きな病気をしている人も必ずこのタイプです。このタイプは頭蓋硬膜の緊張をとって顎関節症の治療に移行します。